

げつやこうじょうきよくきよくき
月夜荒城の曲を聞く（水野豊州）
みずのほうしゅう

えいこ 栄枯 せいすい 盛衰は いちじょう 一場の ゆめ 夢

そうし 相思 おんしゅう 恩讐 ことごと 悉く じんえん 塵煙と なる

ほし 星 うちり 移り もの 物 かわ 換るは せつな 刹那の こと 事

さいげつ 歲月 ぞうぞう 忽々 ちゆ 逝いて かえ 還らず

しへん 史編 よみ 読み つづ 続く こうぼう 興亡の あと 跡

ちようるい 弔涙 いくかい 幾回か きぜん 几前に そそ 灑ぐ

こんや 今夜 こうじょう 荒城 げつや 月夜の きよく 曲

あいしゅう 哀愁 せつせつ 切々 とうねん 当年を おも 憶う

栄枯盛衰一場夢 相思恩讐悉塵煙

星移物換刹那事 歲月忽忽逝不還

史編讀讀興亡跡 弔涙幾回灑几前

今夜荒城月夜曲 哀愁切切憶當年

解説 月明の夜、土井晚翠、滝廉太郎の不朽の名曲・荒城の月を聞いて、その感懐を述べたもの。

語釈 ※荒城||守る者がなく荒れ果てた城。 ※栄枯盛衰||人の世の隆替、盛衰現象。

※一場||その場限りの。 ※相思恩讐||互いの感情や恩やあだ。 ※塵煙||ちりや煙のように消えてゆくこと。 ※星移||星移という場合は年月の移る事をいう。 ※物換||万物の変化してやまぬこと。 ※刹那||瞬間。 ※忽忽||急なるさま。 慌しいさま。

※逝不還||過ぎ去った日月はどのようなことがあるうとも、絶対に返ってこない。

※史編||史籍、歴史の書冊。 ※読続||。 ※興亡||興隆と滅亡。 興敗。 ※弔涙||死者を傷み嘆いて流す涙。 ※几||机。 ※哀愁切切||胸せまる哀しみ。 憂い。 ※当年||往昔。 当時。

通釈 この世の栄枯盛衰は、その場かぎりの、僅かの間の夢にすぎない。時がたてば、お互いの喜びの感情も、また恨みの情も、悉く雲か霞の様に消えてしまう。星が移り、事物が変化していくのも、ほんの少しの間のことである。歲月はどんどんと過ぎ去って帰ってこない。そうした無常の世の移り変わりを考えながら、栄枯盛衰の歴史の跡を振り返ると、その儚さが胸にしみ、自然と涙が出てくる。月の光の中で、あの荒城の曲を聞いていると、栄枯盛衰の跡が偲ばれて哀愁切々と胸をうたれる。